

2024 ～ 2025 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーのマジック

●会長 前田日出夫
●幹事 福井 学


No.1897 令和 07 年 04 月 16 日 第 32 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org


■点鐘

■黙祷

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング

「我らの生業」

(ソングリーダー 古田 哲朗)



■来訪者紹介

(会長 前田 日出夫)

(肥後大津 RC 宇野功一 君)



■会員の時間

(松元 将潔 会員)

○前回、10月に卓話をさせていただきましたが、その際には自己紹介を含め、仕事を始めてからのお話をさせていただきましたので、

今日はですね、この仕事をするまでのきっかけというか、経緯をお話できればと思います。

○私は、高校3年の時に、経営者になりたいという漠然な夢を持ちました。

もともとは小学校の教員を目指しており、大学も小学校の教員になる学部を受けていたのですが、

高校3年の2月に、宮崎日向の自動車免許のが合宿にいき、そこで3週間ほど同じ部屋で過ごした方たちに影響され、

経営者になろうという夢を持ちました。



○そこから、大学2年まで、20歳までは鹿児島にいましたが、

大学3年から、東京の別な大学に編入して、3,4年は東京の大学に行きました。

経営者になりたいという夢はあり、学生時代いろんな活動はしていたのですが、

じゃあ何の業種で、どうやって始めればいいのかもわかりませんでしたので、

じゃあ、経営者としての師匠というか、親方を探そうということで、大学3年の夏休み明けから就活を開始しました。

- ・大きい会社に入ろうとは思っていなかった。
- ・どちらかというと、中小、ベンチャーといわれる、これから成長していくような会社で・・・
- ・合計、150人ほどの経営者に会いにいて、その120番目くらい、
- ・逆求人と呼ばれるイベントがあって、2番目にきて、初めて直感でこの人だ!!!と感じて、
- ・そこから5回ほどあってもらって、最後カバン持ちもして、弟子入りした
- ・決まった後に、何の仕事ですか?、保険だよ、この仕事のスタートで、
- ・新卒で、本社営業部に配属され、30歳で九州に、支店立ち上げで帰ってきたので、今年でちょうど10年になります。

○今の私の目標というか、中期的な目標は、このグループの社長になることです。

まだまだ成長過程にある会社で、そこに至るまでには、まだまだ人間としても、スキル、度胸も足りていませんが、

日々、ロータリーの皆様からも、一緒に過ごす中で、何気ない会話の中とかでも、いろんな事を学ばせていただいております、

本当に感謝しております。

まだまだ未熟で気の利かないところも多いですが、これからも厳しいご指導のほど、よろしくお願いします。

■幹事報告

(幹事 福井 学)



■来信案内

1)

濱田建二 地区 RAS 委員長、上野聖顕 地区 RA 代表より、地区研修・協議会における募金のお礼。

今回の募金額

・ミャンマー大地震支援募金

167,564円

・ローターアクト活動支援募金	181,695円
・ポリオ募金	90,741円
総合計	440,000円

2)
山本雅子 八代南 RC 会長、東明美 インターアクトクラブ年次大会実行委員長より、第 40 回インターアクトクラブ年次大会記念冊子の送付。

■クラブより

- 1)
第 10 回定例理事会報告。
- 1. 大船渡山林火災支援金について。
 - ・ 5 万円を寄付する。
 - 2. 細則の変更（理事の人数）について。
 - ・ 改正にて承認
 - 3. 天草沿岸の藻場消滅問題に関するグローバル補助金プロジェクトについて。
 - ・ 前向きに検討する。
 - ・ 5/21 卓話に来て説明して頂くよう依頼する。

2)
第 40 回地区ローターアクト研修会への全員登録の件。

■今後の地区行事

開催日	行事名	場所	会場	出席者
2025 年 4 月 25 日（土） 4 月 26 日（日）	地区大会	熊本県 熊本市	熊本市市民会館	小畑成可、武末直大、松元将深、彌富照皇、横山佳之、山田公也、渡邊俊一郎、内田信行、堤勝也、杉本整哉、志賀重人、鈴木義親、緒方公一、西田智史、沼田敏雄、中島祐爾、松田和成、松岡泰光、宮川義行、前田日出夫、松本一也、前田昭博、松本繁、片岡貞志、草村安宏、生駒ちあき、古田哲朗、福井学
4 月 29 日 （火・祝）	3501 地区 グローバル補助金 感謝交流会	熊本県 熊本市	城見櫓	彌富照皇、前田日出夫、中島祐爾
5 月 10 日（土）	RLI 卒後コース	熊本県 熊本市	熊本市市民会館	彌富照皇
5 月 21 日（土） 5 月 22 日（日）	地区ローターアクト 研修会	熊本県 熊本市	熊本国際交流会 館、熊本市中央公 民館、他	全会員登録

■ロータリー情報の時間
(ロータリー情報担当委員 潮谷愛一)

日本人の特性である「誠実」「勤勉」「謙虚」が失われつつあり、思いやりの減少や自己中心的傾向の広がりが社会問題化している。60 歳以下の人口は全体の半数を占め、さまざまな欲求不充足から多くの現代的課題が生じている。たとえば、不登校・引きこもり・虐待・離婚の増加、成績や幸



福度の低迷、出生数の減少など、若年層に関する問題は深刻化している。その背景には、日本古来の育児法「おんぶ」「だっこ」「母乳」「添寝」などの“愛着”行動が失われたことがある。

脳の発達上、乳幼児期の安心と感情発達は極めて重要であり、昭和 40 年以降の育児の“西欧化”によって、本来の成長過程が損なわれたと筆者は指摘。この変化が、現代日本の不安定さや活力の喪失につながっているのではないかと警鐘を鳴らしている。

2025 年 2 月 10 日

日本人は元来、「誠実」「勤勉」「謙虚」が特性

「いつのまにか、日本人には自己中心の人が増え、思いやりが減っていないだろうか。昔なかった問題が今、新しい問題となって久しい。日本の人口は 12,000 万人だが、若者を中心とした問題を上げてみよう。今、60 才以下の人口は、6,000 万人と全人口の半分以上を占めている時代である。人間は、欲求不充足にあえいでいるのがよく分かる。

人間の欲求 (Needs) は、A:生理的欲求 ①食②排泄③睡眠、B:社会的欲求 ①愛②承認③ 成就③所属⑤独立などの欲求不充足である。

1. 不登校 34 万人 2. 引きこもり 146 万人 3. いじめ 73 万人 4. 校内暴力 11 万人 5. 虐待受 22 万人 6. 精神障害 615 万人 7. アンガーマネジメント (怒り) 8. カスタマーハラスメント (文句) 9. 国語・数学成績 世界 2 位 10. 幸福度 世界 37 位 11. 結婚 51 万組 離婚 18 万組 12. 母子世帯 120 万世帯 13. 父子世帯 15 万世帯 14. 50 才以上男性未婚 28% 15. 50 才以上女性未婚 17% 16. 出生児 70 万人未満

以上のような問題が、現代に起きている。なぜか、昔やっていた育児が今、消えていることも関係してはいないだろうか。それは、日本の伝統的育児は、「おんぶ」「だっこ」「母乳」「添寝」など、赤ちゃんを安心、安全にして、不安と恐怖を与えない「愛着」行為の減少である。

生まれた赤ちゃんの脳は 400g、1才で 800g になっていることが分かっている。脳の「海馬」と「扁桃体」で安心・安全・不安・恐怖が分かるようだ。そして 3 才になった脳は、960g となり、「脳高前頭皮質」で「がまん」を学ぶ。5 才を過ぎたら限界という。

もっとも大切な理性の成長は、25 才までかかるそうだから、乳幼児期の感情発達は最重要といえよう。

日本人は育児理論を知らなかったかもしれないが、大切なものをしっかり見抜いていた。しかし、残念なことに、昭和 40 年、「保健所」の指導を通して、「それは誤りであって、程々に」と指導してきた。私は、昭和 60 年に、その指導の誤りを批判した。

当時の赤ちゃんは、今 60 才となり、その人の子らも、おんぶ、だっこ、母乳、添寝の安心と愛着を失い、不安と恐怖を抱えた 60 才以下が、国民の半数となったのが、日本の今日なのである。全ての人はと言えないが、思いやりが減り自己中心がはびこり、ボランティアも減少していないだろうか。

日本が再び戦争を起こさないように、この 80 年、アメリカは占領政策と経済力と教育で、日本を変えたが、本当は、子育てを変更しなかったから、日本は復興する土気を失った。しかし、昭和 40 年から同 60 年の子育てで西欧化によって、活力を失ったように見える。

日本の「おんぶ」「だっこ」「母乳」「添寝」を再び取り戻したいものである。

2025. 2. 10. 潮谷愛一

■委員会報告
(親睦・スマイル担当委員長 松田和成)

第 2 回パークゴルフ大会
BBQ 報告



■出席報告

(出席・プログラム担当委員長

片岡 貞志)



月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率(%)
04月02日	39 (免2) 37	29	2	31	83.78
04月16日	39 (免1) 38	27 (ZOOM1)	-	-	-

☆出席免除

4月2日

島村徹男 志賀重人

4月14日

島村徹男

★欠席者

4月2日(2名)

川崎直樹 宮國龍乃 小野川善久 潮谷愛一 山本浩之 山坂哲生

■スマイル

(親睦・スマイル担当委員

生駒ちあき)



◎宇野功一 君

(肥後大津 RC) 2,000 円

本日は熊本東南 RC に訪問させていただきありがとうございます。



◎緒方公一 30,000 円

先日第2回パークゴルフ大会に参加された方々、お疲れ様でした。自分事では前期の決算も目処が立ち安心しているところです。今期も社員とお客様の満足の為頑張ります。



◎渡邊俊一郎 20,000 円

先週の例会では自己紹介させていただきました。ありがとうございます。

本日は熊本地震から9年です。忘れずに備えていきたいと改めて思いました。

4/13に万博初日に行ってきた。荒尾RC、玉名RCの友人と行ったのですが、ロータリーの団体券だったので、何万人も入場で並んでいましたが、5分で団体入場口より入れました。ロータリーのすごさを感じました。皆さんも是非行かれて下さい。



◎出先教明 5,000 円

結婚して29年目を迎えました。結婚記念日ありがとうございました。



◎宮川義行 5,000 円

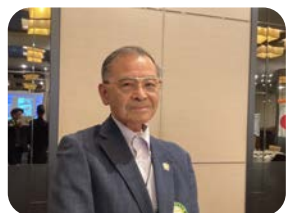
地区ローターアクトサポート委員会の宇野さんのご来訪を歓迎いたします。熊本地震から9年の月日が流れました。街は復興しましたが、記憶は残ります。避難生活、車中泊、停電、断水、そんな中でロータリーは食糧配給、炊き出し、家屋修理、残骸撤去を行いました。内田会員はクレーン車を使って、僕たちは高所作業車で、他にも軽トラやダンプをくり出し、ボランティアを繰り返しました。あの日を忘れないで常に車の整備や避難用の荷造りをしておきたいものです。いつか奥さんから逃げる準備をしている方も備えあれば憂い無し。最後に亡くなられた287名の方、お悔やみ申しあげます。今ここにいらっしゃる皆さんにスマイルします。



◎沼田敏雄 5,000 円

1. 松田親睦委員長、13日(日)パークゴルフ大会、楽しめました。初めてのゴルフ体験でしたが人生長生きすることですね！

2. 内田会員宅ではバーベキューとても満足して帰りました。特に鶏の唐揚げは最高の味でした。もちろん他の天ぷらなども最高でした。長生きすればご馳走になれますね。



◎杉本整哉 3,000 円

宇野様のご来訪を歓迎いたします。誕生祝いありがとうございました。先日の日曜日の第2回パークゴルフ大会に妻と娘が参加させていただきました。面倒を見ていただき有難うございました。



◎前田日出夫 2,000 円

肥後大津 RC ローターアクトサポート委員長のご来訪を歓迎してスマイルします。



■クラブ協議会③-1「地区研修・協議会報告」

◆「会長部会」

(堤勝也 会長エレクト)

PETS 報告

次年度の地区スローガン



「みんなでつなぐ、育てる、ロータリー・リレーションシップ」

地区の会員が強くつながることで、会員の成長とロータリーの活性化を実現。あらためて「手を取り合うことの力」とその温かさを見直し、より良い未来を目指す。

クラブとリーダーの役割

ロータリーの中心はクラブであり、クラブの活性化こそが地区全体の発展につながる。

クラブ同士の協力や連携は、地域社会への貢献や会員増強にも直結する。グループディスカッションなどを通じて、他クラブとの交流とネットワーク形成を促進。

地区研修・協議会（会長部会）

会長の役割と責務について

グループディスカッション

第三グループの連絡事項（ガバナー公式訪問の日程・IM等）

各クラブの会員増強について、事例を挙げての意見交換

◆「幹事部会」

（草村安宏 次期幹事）

会議全体的にディスカッションが中心で、内容は、クラブでの各役員、理事、委員長との役割を共有してクラブ運営を滞りなく進めること、各クラブでの共通課題である入会者を増やすことを全員の課題として取り組むことなどについてでした。



◆「職業奉仕部門」

（古田哲朗 次期職業奉仕担当委員長）

部門テーマは、「輝け、職業奉仕！」です。ミクロな視点ではなく、もっとマクロな視点で職業奉仕をとらえなおすという試みです。2007年ころに大阪で行われた職業奉仕セミナーを題材にして出前セミナーを検討しています。大阪においては、職業奉仕は「正しいお金儲けのための経営学」だと明言していました。その内容は、奉仕の理想を1 ロータリー道徳律、2 ロータリー通解、3 決議 23-34 を紐解きながら理解するものでした。しかも、具体的な場面でどうすべきかについても言及していました。

私も、セミナーの内容を作成するにあたって、職業奉仕について再度検討することになりました。職業奉仕を学ぶとは何なのだろうか。私が思い出したのは、ピータードラッカーの「真摯さはごまかせない」という言葉です。さまざまな経営ツールを使って、企業戦略を作成したとしても、代表者が真摯でなければ、どうすることもできないという意味です。ロータリーの職業奉仕は、まさに「真摯さ」を学ぶことだと思っています。

以上を前提にして作成した次年度の出前セミナーを実施しました。

その後、木下修地区委員から職業奉仕の歴史を、村田武地区委員からクラブで実施する職業奉仕をテーマに発表がありました。

講評を担当した前田パストガバナーからは、「あなたにとって職業奉仕とはどういう意味ですかと質問されたときに、一言で答えられるようにしましょう」という宿題が出ました。

■点鐘

（編集者 松尾 浩）

◆ロータリー国際大会の楽しみ方

寄稿者：加藤雄彦（仙台ロータリークラブ会員、RI 第 2520 地区ガバナーエレクト）

早朝、人通りの少ないオーチャード通りを気ままに散歩し、Google マップ片手に地下鉄（MRT）に乗る。地元グルメを楽しむためにふらっと店に立ち寄る。そんな中、ロータリー国際大会のバッジをつけた人と目が合うたびに、なんだかワクワクした気持ちになる……。知らない街をこんなふうに自由に探検できるのも、ロータリー国際大会ならではの楽しみ方かもしれません。でも、国際大会にはもっと多くの楽しみや可能性があります。シンガポール大会での私の体験をもとに、まさに「宝の山」である国際大会の醍醐味を紹介したいと思います。

そこにいるだけでワクワク

シンガポール国際大会の「友愛の家」でウクライナ第 2232 地区の会員たちと。

2024 年 5 月 25 日、大会会場である Marina Bay Sands Expo & Convention Centre で登録を終えた私は、すぐに「友愛の家」に足を運びました。ブースを担当するロータリアンたちと気軽に話せたのがすごく楽しく、改めて「ロータリーって世界中の人たちがつながってるんだ」と実感。展示もとても面白く、まるで大学の文化祭を見て回っているような感覚でした。



5 月 26 日（日）の開会式は、さすが国際大会！という迫力とスケールで、まさにロータリーの祭典でした。

刺激に満ちた分科会

でも、私が一番刺激を受けたのは、翌日から始まった分科会です。開会式や本会議しか知らない方もいるかもしれませんが、実は、自分の興味やテーマに合わせて選べる分科会がたくさんあるのです。

「Meet Rotary People of Action: Champions of Impact」（ロータリーの「世界を変える行動人：インパクトの推進者」たちと会おう）という分科会では、ステファニー・アーチック会長が以前からずっと提唱しているロータリー行動計画の優先事項の中から、「より大きなインパクトをもたらす」（Increase Our Impact）について学びました。以前の戦略計画との違いもよく分かり、まさに目からウロコでした。

次に参加した「Multiyear District Planning: Successful Case Study」（多年度の地区計画：成功事例のケーススタディ）という分科会は、いろんな考えを持つ人とどう協力し、柔軟に対応していくかという、もう一つの優先事項「適応力を高める」（Increase Our Ability to Adapt）について、具体的なヒントが得られました。

分科会でデ・カマルゴ会長エレクトと。

翌日も、楽しみにしていたうなぎを食べてから（笑）、分科会「Together, We End

Polio」（共にポリオをなくそう）に参加。ロータリーやパートナー団体の取り組みが、ポリオ根絶にどれだけ大きく貢献しているか、改めて実感できました。活動のインパクトをどう会員に伝え、寄付に結びつけていくか、改めて考えさせられました。



最終日には「RI President-nominee Mario's Vision on Membership」（マリオ会長ノミニの会員増強のビジョン）に参加し、デ・カマルゴ RI 会長ノミニに、ほんの 2 分でしたが直接ご挨拶できました。彼の考えを聞いたことで、地区運営についての準備の方向性がはっきり見えてきました。

国際大会での出会いから生まれる協力

ちょっと自分の話になりますが、1998-99 年度に第 2810 地区ガバナーを務めた父・加藤昭のいここにあたる天江喜七郎さんは、一橋大学を経て外務省に入り、最後は駐ウクライナ日本大使を務めた人でした。その人に、「あなたは教育者だし、ロータリアンなんだから、俺のあとを継いでウクライナのこと頼むよ」と、仙台弁まじりで言われたことがあります。この言葉は、その後もずっと私の心に残っていました。

そして出席した今回のシンガポール国際大会。妻と一緒にウクライナのブースを探していたときに、ウクライナから参加していたオルガ・パリチェックさん（チェルカスイ・ロータリークラブ）と出会いました。初対面なのにすぐに打ち解けられたのは、既にロータリーを通じて「志を共にする仲間」になっていたからかもしれません。

この出会いから、ウクライナの会員との協力の可能性がどんどん広がっています。その一つは、オルガさんから提案のあった、日本とウクライナとの国際共同委員会（ICC）です。現在、日本側の事務局をどこに置かなどを協議中ですが、結成されれば日本初の ICC に。日本の 34 地区のガバナーエレクト仲間と一緒に、今後しっかり学び育てていきたいと思っています。

また、来る 7 月か 8 月、多賀城ロータリークラブがスポンサーとなって「多賀城ロータリー 1300 衛星クラブ」（多賀城創建 1300 年を記念して命名）を設立する予定ですが、入会希望者にはウクライナ人 2 名が含まれています。

親愛なるロータリアンの皆さん、国際大会は、本当に「宝の山」です！次回のカルガリー大会、そしてその次の台北大会では、世界中からの参加者と積極的に交流し、ぜひ分科会にもたっぷり参加して、最後の閉会式まで思いっきり楽しんでみてください！